

保護者様

さいたま市立大谷小学校
校長 富澤 秀行

平成28年度 学校評価の結果とその考察・改善策

本校では、教育活動の改善や充実を図ることを目的に、教職員アンケートによる自己評価をはじめ、児童アンケート、保護者アンケートによる、平成28年度「学校評価」を実施いたしました。また、過日、学校評議員・学校関係者評価委員の方々から大谷小学校の教育活動等について評価をいただきました。

様々な視点から、これからの本校の教育活動の改善や充実を図るためのご意見を頂戴いたしましたこと、心よりお礼申し上げます。ここに、それらの内容及び結果分析と、改善に向けた具体的方策について皆様にご報告させていただきます。今後、さらに活力あふれるよりよい大谷小学校をつくってまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 学校評価の内容

- (1)児童アンケート結果
- (2)保護者アンケート結果
- (3)教職員アンケート結果
- (4)考察と改善策
- (5)改善に向けたアクション5

2 学校関係者評価委員会における委員の意見等

(1)学校経営方針

学校が家庭・地域と連携し、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむ教育の推進に向け、積極的に取り組む姿が教職員にも教育活動の中にも見られた。

(2)学習指導について

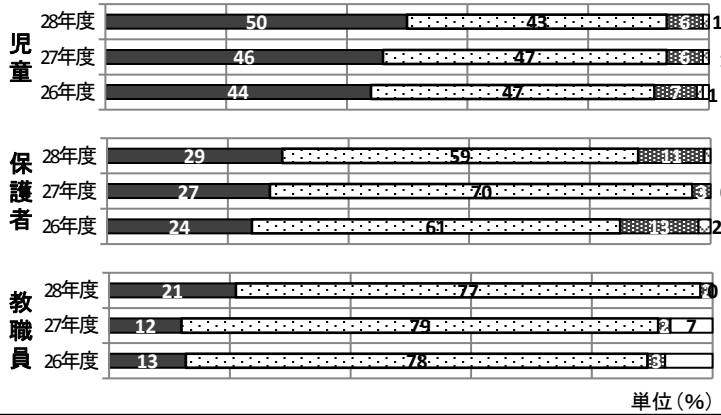
- ①これからも授業において、指導方法の工夫や個に応じた支援の充実を図ることで基礎学力を定着させてほしい。また、学習習慣づくりや基本的な生活習慣向上に向け、家庭との連携をさらに図れるとよい。
- ②「体力向上」の研究委嘱を受け、体育の授業や日常の活動を通して、運動が好きな子どもの育成を図っており、その成果が表れていることがとてもよい。これからも「運動する楽しさやできる喜びを感じられる授業づくり」や「仲間と運動するよさを感じ、学び合える集団づくりの工夫」に取り組んでほしい。
- ③教育活動の中に、地域と連携した取組が見られた。今後も地域の人材を生かした教育活動を継続してほしい。

(3)その他

- ①「毎日、楽しく学校に来ている。」と答えている児童が9割を超えており、とてもよい。安心できる。
- ②保護者の協力を得るためにも、子どもたちの様子や学年で困っていること、学年からのお願いなどを具体的に学年だよりで知らせていくとよいのではないかと。
- ③トイレに関する保護者の要望が多いが、それに対する保護者の取組がないのが残念である。親子清掃などで保護者によるトイレ清掃を呼び掛けてみてはどうか。
- ④PTAの見回り活動が来年度から朝の登校指導に移行することで、子どもたちの登校時の安全が充実で

■1番目…よくあてはまる □2番目…ややあてはまる ■3番目…あまりあてはまらない □4番目…まったくあてはまらない □無回答

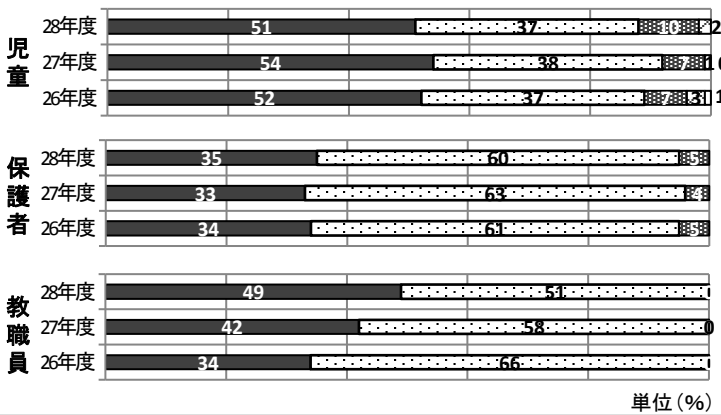
【質問1】 児童：授業で学習したことは分かりますか。
 保護者：あなたのお子さんは、学習の基礎・基本を身に付けていますか。
 教職員：あなたは、分かりやすく学習の基礎・基本を身に付ける授業を行っていますか。



考察
 ・児童の肯定的な回答が9割を超えている。教員の学習指導の工夫・改善が児童の肯定的な回答につながっていると考える。
 ・経年変化では、児童・保護者・教職員とも「よくあてはまる」の回答割合が伸びている。
 ・保護者の肯定的な回答の割合が9割を下回った。1割の保護者が「あまりあてはまらない」と回答していることから、保護者の基礎基本を定着させる学習指導に対する期待や要望が高まっていると考える。

改善策
 ☞学校課題研究をはじめ、各研修での成果(算数大谷小スタンダード、体育授業マニュアル、計画訪問等)を生かした授業を推進する。
 ☞算数の学習を中心に、少人数指導教員を生かし、児童の実態や学習内容等に応じてT.T.や習熟度別など、学習形態を工夫した学習指導を展開することで、個別支援の充実を図る。
 ☞「家庭学習の手引き」、「音読カード」、「計算カード」、「学習カード」等を基に、家庭と連携して家庭学習の習慣化を行い、基礎基本の定着を図る。

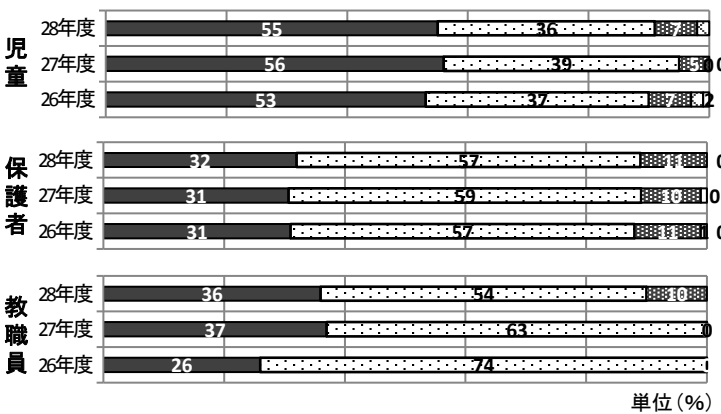
【質問2】 児童：だれとでもなかよくできていますか。
 保護者：あなたのお子さんは、相手を思いやり、善悪を判断して正しい行動がとれる子どもに育っていますか。
 教職員：あなたは、相手を思いやり、善悪を判断して正しい行動がとれる子どもを育てていますか。



考察
 ・児童、保護者とも肯定的な回答が9割前後で概ねよい状態である。
 ・経年変化では、肯定的な回答の割合は大きく変わらないが、教職員の「よくあてはまる」と回答した割合が伸びている。
 ・道徳や特別活動、潤いの時間、読書活動、朝会等、いろいろな教育活動の場で児童の心の育成への継続した取組の成果が、概ねよい状態につながっていると考える。

改善策
 ☞道徳教育や人権教育を充実させ、自他を尊重する心や規範意識を育てる。
 ☞クラブ、委員会、なかよし学級、通学班等、異学年交流の場での指導を充実させ、人との関わりを通して思いやりの心や態度を育てる。
 ☞体験活動を年間指導計画に位置付け、充実させていくなかで、児童の豊かな心を育てる。

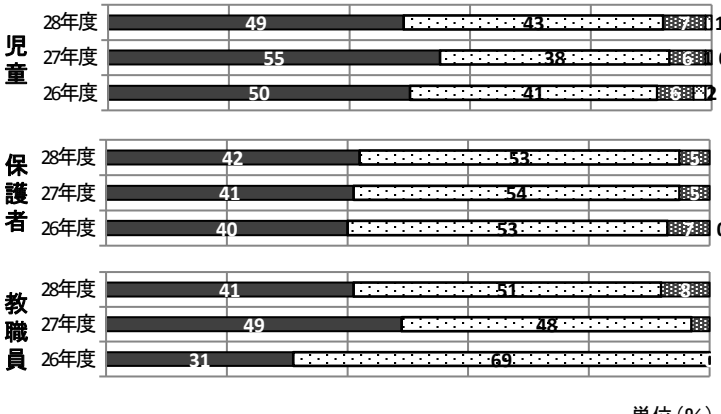
【質問3】 児童：時間をまもり、学習や運動・仕事などを一生けんめいに行っていますか。
 保護者：あなたのお子さんは、けじめのある学校生活を送り、努力する子どもに育っていますか。
 教職員：あなたは、けじめのある学校生活を送り、努力する子どもを育てていますか。



考察
 ・児童、保護者とも肯定的な回答が9割前後で概ねよい状態である。
 ・経年変化では、大きな変化はなく、概ねよい状態が継続している。
 ・「大谷小よい子の生活」をもとに、学校教育目標「最後までがんばる子」の具現化を目指し、チャイム席や学習規律の指導、目的やめあて、活動を明確にした学習指導について、教職員が共通指導したことで、概ねよい状態につながっていると考えられる。

改善策
 ☞4月の懇談会で「大谷小よい子の生活」を配付し、家庭と学校が共通理解のもと、「目指す児童像」の具現化を目指して児童の共通指導を継続していく。また、懇談会、家庭訪問、個人面談、教育相談等の機会を通して、学校と家庭で共通理解を図る。
 ☞個や集団に対して適時、適切に評価することで、児童のものごとに取り組む意欲をさらに向上させていく。
 ☞児童がメリハリをつけて個々の活動に取り組めるよう、委員会活動等の活動を計画的に行い、多忙にならないように配慮する。

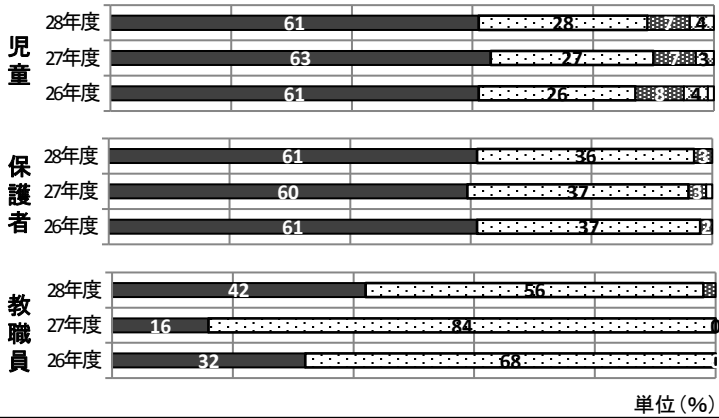
【質問4】 児童：進んであいさつをし、学校のきまりを守っていますか。
 保護者：あなたのお子さんは、集団生活のルールやマナーを身に付けていますか。
 教職員：あなたは、集団生活のルールやマナーを子どもに身に付けさせていますか。



考察
 ・児童、保護者、教職員とも肯定的な回答が9割を超えている。
 ・経年変化では、肯定的な回答の割合に大きな変化はないが、児童と教職員の「よくあてはまる」と回答した割合が減少している。
 ・あいさつについては、あいさつの響く学校づくりとして取り組んでいる児童会やなかよし学級でのあいさつ運動、大谷中学校生徒会との合同あいさつ運動の成果が表れている。引き続き自発的に、心を込めてあいさつができる態度を育成していく。

改善策
 ☞教職員や保護者等の大人が範を示し、人間関係構築の入口であるあいさつの大切さや場に合ったあいさつの仕方を指導し、全児童が正しいあいさつができるように繰り返し指導する。
 ☞あいさつ運動を継続する中で、あいさつの意義を実感させ、生活習慣として定着させる。
 ☞4月の懇談会で「大谷小よい子の生活」を配付し、家庭と学校が共通理解のもと、「目指す児童像」の具現化を目指して児童の共通指導を継続していく。また、懇談会、家庭訪問、個人面談、教育相談等の機会を通して、学校と保護者で共通理解を図る。

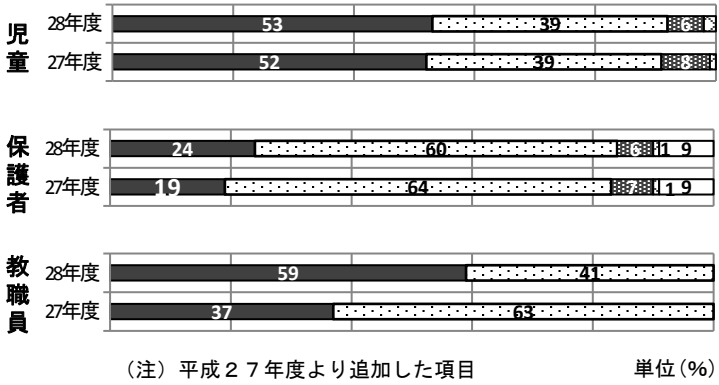
【質問5】 児童：毎日、楽しく学校にきていますか。
 保護者：あなたのお子さんは、友達と仲良く生活し、楽しく学校に通っていますか。
 教職員：あなたのクラスの子どもたちは、生き生きと学校生活を送っていますか。
 (大谷小学校の子どもたちは、生き生きと学校生活を送っていますか。)



考察
 ・児童と保護者の肯定的な回答は9割前後で概ねよい状態である。
 ・経年変化では、肯定的な回答の割合は変わらないが、教職員の「よくあてはまる」の回答が伸びている。
 ・学年が上がるとつれて、学習内容が難しくなったり、人間関係が複雑になったりすることなどが、児童にとって負担となっていると考えられる。
 ・児童の否定的な回答が、保護者と教職員より高いのは、質問8の結果のとおり、大人に相談できず問題を解決できていないことを表しているのではないかと考えられる。

改善策
 ☞ 教職員がアンテナを高くして組織的に児童の観察や情報収集すること、各種調査を活用すること、さわやか相談を活用することなどに取り組むことで実態把握に努め、学校が楽しくない要因を取り除く支援をする。
 ☞ 楽しい授業、分かる授業、行事への取組を行うなかで、児童一人ひとりの活躍の場を設けるとともに、児童同士がかかわり、人間関係を豊かにしたり、自己肯定感を高めたり、集団への所属意識を高めたりする指導、支援を行う。

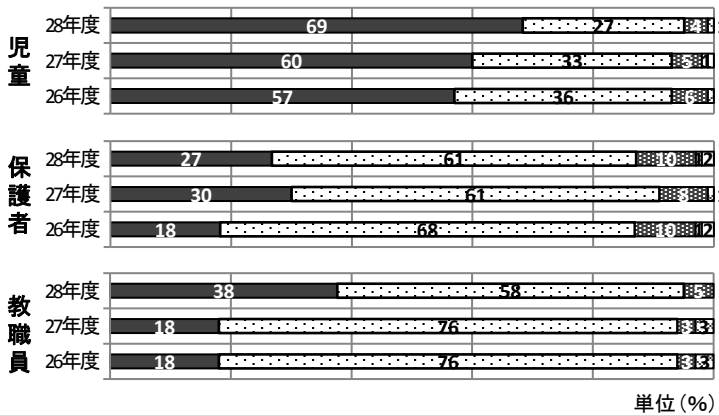
【質問6】 児童：児童会や学級でのいじめ撲滅の取り組みをもとに、いじめのない学校、学級にしようとして努力していますか。
 保護者：学校は、いじめ防止基本方針の下、組織的に、積極的にいじめ防止に取り組んでいますか。
 教職員：あなたは、いじめ防止基本方針のもと、組織的に、積極的に指導していますか。



考察
 ・児童の肯定的な回答の割合は9割を超えている。
 ・保護者の肯定的な回答は8割を超えているが、無回答が約1割と、他の質問より高い。保護者の無回答が多いのは、学校の取組が十分伝わっていないことが考えられる。
 ・経年変化では、児童、保護者、教職員とも「よくあてはまる」と回答した割合が増え、児童会を中心としたいじめ撲滅の取組の成果が表れていると考える。約1割の児童が否定的に回答しているため、取組を充実させ、0に近づけたい。

改善策
 ☞ 児童会を中心に、全教職員の共通理解・共通指導で、いじめ撲滅の取組の継続する。
 ☞ 学校のWebページに「大谷小学校いじめ防止基本方針」の掲載、いじめ防止基本方針の周知を進め、児童、保護者、教職員、学校、地域がそれぞれの役割でいじめ撲滅に取り組む。
 ☞ 児童会を中心に、全教職員の共通理解・共通指導で、いじめ撲滅の取組を継続する。あわせて学校だより、学年だより、児童会だより等で取組や成果の紹介を行うことで、学校の取組に見える化する。

【質問7】 児童：きちんとそうじをして、学校をきれいにしていますか。
 保護者：学校は、学習に集中でき、安全できれいな学習環境を整えていますか。
 教職員：あなたは、学習に集中でき、安全できれいな学習環境を整えていますか。

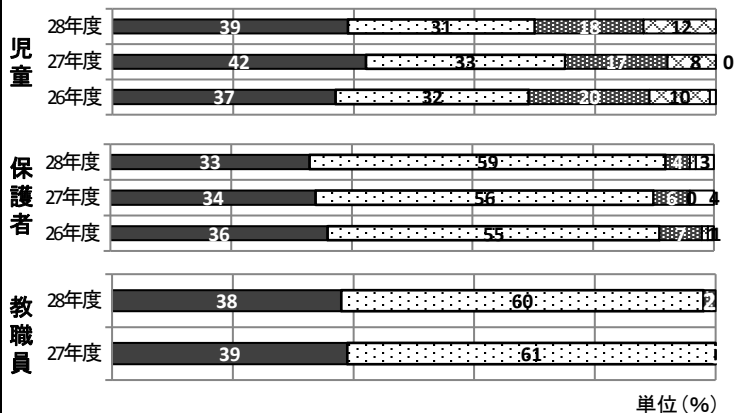


考察
 ・児童、保護者とも肯定的な回答が9割前後である。
 ・経年変化では、肯定的な回答の割合はあまり変化がないが、大谷小「そうじのやくそく」をもとにした共通指導の成果が表れ、引き続き、児童の「学校をきれいにしよう」という意識が高い状態である。児童の意識と実態の差もあるので、指導を継続し、そうじの目的を達成させたい。

・保護者の「よくあてはまる」の割合が低いのは、自由記述から、AB通路のトイレ改修の要望と関連があり、トイレ環境への不満が表れていると考えられる。

改善策
 ☞ 大谷小「そうじのやくそく」をもとにした、共通指導を全教職員で継続して行う。
 ☞ 月1回の安全点検、日常点検をもとに報告を徹底し、迅速に環境整備を行う。
 ☞ 親子清掃の取組を継続して、児童、保護者、教職員で協働して学校をきれいにする活動を行い、「きれいな学校」の実現に努めるとともに、学校を大切にしようとする意識を高める。
 ☞ 学校の施設改善については、毎年教育委員会に要望を出している。優先順位を付けて整備されていく。
 ☞ トイレについては、今年度は、2階AB通路トイレ床がコーティングされた。学校では、トイレに芳香剤を設置したり、毎放課後に消臭剤を散布したりする取組を継続していく。

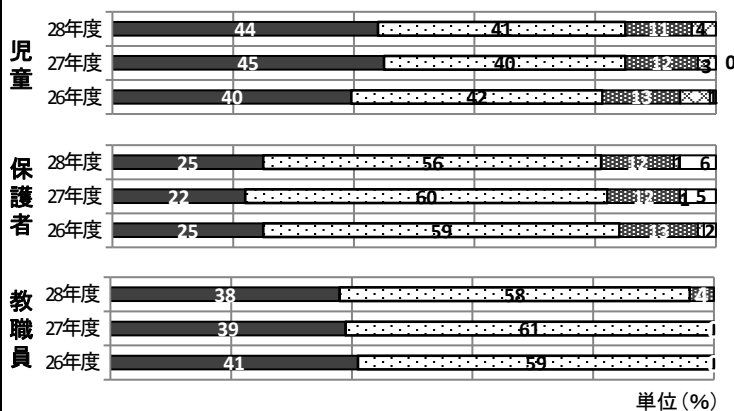
【質問8】 児童：困ったことや悩みごとを先生に相談したり話したりしていますか。
 (困ったことや悩みごとがあれば、先生に相談したり話したりすることができますか。)
 保護者：学校は、子どもや保護者の相談や要望に適切に対応していますか。
 教職員：あなたは、子どもや保護者の相談や要望に適切に対応していますか。



考察
 ・児童の3割が否定的に回答しており、全質問の中で否定的な回答の割合が一番高い。教職員は、「いつでも相談していいよ」と言っているが、指導的になり、児童にとって相談しづらい存在、雰囲気になっているかもしれない。
 ・保護者の肯定的な回答は、9割を超えている。保護者の相談に対しては、組織的に、「迅速、誠実、アフターケア」で対応しているため、高評価につながっていると考えられる。
 ・今年度は、大谷中学校と大宮八幡中学校のさわやか相談員と連携し、毎月児童向けさわやか相談室を開室した。今後、さわやか相談員が児童の相談相手として身近な存在になれるよう周知したい。

改善策
 ☑各アンケート調査結果をもとに相談を行うとともに、複数の目で児童の変化を捉え、情報を共有して、積極的に声を掛け、相談しやすい雰囲気を作る。
 ☑児童との相談時間や相談体制、相談手法等の計画を教育相談部で立案し、全校で組織的に相談を実施する。
 ☑さわやか相談室の周知、活用の推進を図るとともに、さわやか相談員の授業参加を通して、児童が相談しやすくなるような人間関係づくりを進める。
 ☑5・6年「いのちの支え合いを学ぶ授業」を通して、「相談することの大切さ」や「相談できる機関」等について体験的に学ぶ機会の充実を図る。

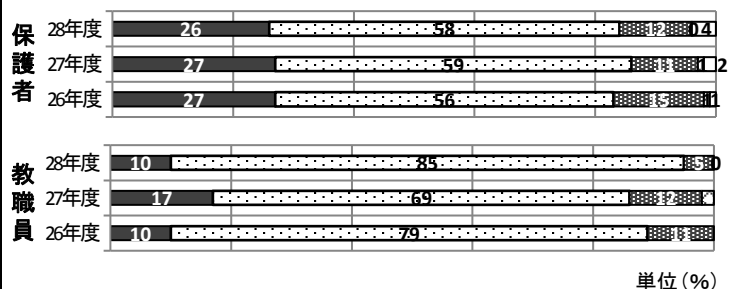
【質問9】 児童：先生にがんばったことや努力したことをほめられていますか。
 保護者：学校は、子ども一人ひとりのよさや可能性を伸ばすことに努めていますか。
 教職員：あなたは、個々のがんばりを認め、励まし、一人ひとりの個性の伸長に努めていますか。



考察
 ・児童と保護者の1割超が否定的に回答しており、他の質問より肯定的な回答の割合が低い。
 ・経年変化では大きな変化はない。
 ・質問2や質問3と関連し、「なかよく」「いっしょけんめい」努力している児童はほめられるが、そうでない児童は、指導される。教職員としては、分け隔てなくほめたり、指導したりしているが、児童一人ひとりにとって、その受け止め方、感じ方が違うことも関係していると考えられる。
 ・保護者の無回答の割合が高いのは、よさを伸ばす取組が十分に伝わっていないことの表れであると考えられる。

改善策
 ☑複数の目で児童のがんばりを捉え、情報を共有して、発達段階に応じて、適時に、積極的に、目に見える形で評価することで、自己肯定感の向上につなげる。
 ☑丸付け、コメント、各たより、連絡帳、面談、懇談会等で児童のよいところを伝える取組を継続し、児童と保護者にとって目に見える評価を行う。

【質問10】 保護者：学校は、家庭や地域に学校の方針や子どもの様子を分かりやすく伝えていきますか。
 教職員：あなたは、家庭や地域に学校の方針や教育活動、子どもの様子を分かりやすく伝えていきますか。



考察
 ・保護者の2割弱が否定的な回答をしており、他の質問より肯定的な回答の割合が低い。
 ・経年変化では、大きな変化はない。
 ・学校や教職員は、様々な情報を伝えようとしているが、発信している情報が保護者のニーズと十分に合致していないこと、ネット社会においてWebページの更新が不十分なこと等が理由として考えられる。

改善策
 ☑保護者のニーズを把握し、学校だより、学年だより等の内容の充実を図る。連絡、お願いにあわせて、「方針」、「取組」、「児童のがんばり」等を掲載し、工夫した紙面づくりを行う。
 ☑学校Webページの更新を毎月行い、児童の活動の様子を伝える等、情報の提供機会を充実させる。

改善に向けたアクション5

1

大谷小学校は、子ども一人ひとりのよさや努力のプロセスに目を向け「ほめて伸ばす教育」を推進し、児童の自己肯定感を高めます。

2

大谷小学校は、校内研修や教材研究の質を高めて個に応じた学習指導・学習支援の充実を図り、児童の学習意欲、向上心、学力の向上を目指します。

3

大谷小学校は、授業や行事、その他教育活動で友達や人、自然、ものと豊かにかかわる体験活動を充実させ、児童の豊かな心をはぐくみます。

4

大谷小学校は、家庭、地域と連携を図って「いじめ防止基本方針」「大谷小よい子の生活」の共通指導を行い、規範意識や安全意識を高め、いじめのない学校を目指します。

5

大谷小学校は、積極的な学校公開や情報発信、教育相談の充実で、学校の様子、子どもたちの様子についての情報を家庭・地域と共有します。